

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200770		
法人名	医療法人社団 飯盛会		
事業所名	グループホーム いいもり (ひまわり・なでしこ)		
所在地	〒819-0037 福岡県福岡市西区飯盛664番地1 Tel 092-811-9080		
自己評価作成日	令和07年01月30日	評価結果確定日	令和07年03月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和07年03月03日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境で倉光病院の敷地内という立地に季節折々の花が咲き、整備された庭の中を入居者様と一緒に眺めながら散歩をしている。職員は、認知症介護の基本を見直しながら、入居者様一人一人に寄り添った対応を心掛け、意見を交わし方針を決定している。勤続年数が長い職員が多いため、入居者様のケアを統一する事ができ、質の高い介護を提供出来ている。併設の倉光病院と連携し、口腔ケアの指導や協力医療機関として日頃から相談、助言、支援など受けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある母体医療法人の敷地内に22年前に開設したグループホームである。精神科、内科、歯科のある併設病院との連携により、他のグループホームでは難しい利用者の受け入れも可能であることから待機者が後を絶たず、常に満室である。経験の長い職員が定着し、馴染みの関係の中で利用者に丁寧に寄り添っている。また、毎月、担当職員がお便りや利用者の笑顔の写真を家族に送り、こまめに連絡し報告を行うと同時に家族アンケートを実施して家族の意向を把握する等、家族への配慮も行き届いている。新型コロナ5類移行に伴い外出や地域交流を少しずつ再開し、ホーム周辺の散歩を日課として利用者の気分転換を図っている。グループホーム情報交換会「いとの会」や校区内の事業所の集まり「金武校区よかネット」等に参加し、同業者と交流を図りながら、地域福祉事業の拠点を目指す「グループホーム いいもり」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印				
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会			
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス等にて理念に基づいた目標を立て、実践し月毎に評価している。	理念と基本方針をホーム内の数か所に掲示し、朝礼時には唱和をして理念の共有に努めている。また、理念を基に今年度の目標、月間目標を設定し、月毎に評価しながら理念の実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神社の行事や町内の清掃などに参加している。 また地域の有志で行っている獅子舞もホームに来て披露してくださってる。	開設22年目を迎え、長い歴史の中で少しずつ地域との関係を積み重ねてきた。神社の行事や町内の清掃に参加し、地域のボランティアによる獅子舞の来訪等、少しずつ交流の輪を広げている。また、管理者がキャラバンメイトとして公民館でフレイルの講習会を行う等、自治会会長や公民館の方々と話が出来る関係であり、密に情報交換を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	金武校区よかネットに参加し、地域に向けて事業所ができる事など話し合っている。また、キャラバンメイトとして活動している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会議を開いている。現在のご家族、民生委員、いきいきセンターの方に参加して頂き、入居者様の近況報告や行事、事故報告、避難訓練などについて話し合いを行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホーム運営や取り組み、利用者状況、ヒヤリハット、事故等の報告を行い、委員(家族、民生委員、いきいきセンター)からは、意見や質問、情報の提供を受けて話し合い、出された意見をホーム運営や介護サービスに反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	金武校区よかネットに参加し、地域の事業者や市町村担当者と協力している。 運営推進会議議事録を福岡市に郵送し、報告している。	グループホーム情報交換会「いとのか」や「金武校区よかネット」に参加し、近隣の同業者や行政と情報を共有しながら連携を図っている。管理者は、疑問点や困難事例について行政に相談し、事故等の報告を行い連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を選出し、研修に参加しグループホームとしての方針を定め、職員全員が共有できるようにしている。	法人内事業所と合同で身体拘束委員会を3ヶ月毎に実施している。言葉遣い、柵の使用法、車椅子の配置の仕方等、細かな事も話し合い確認している。グループホームに資料を持ち帰り、伝達研修で職員全員へ周知し、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスにて職員間でも注意指摘しあえる関係作りに取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の人権委員会、人権研修に参加し、得た知識を他の職員にも報告している。 また、入居者の方が後見制度を利用する際は、職員に詳しく説明を行っている。	法人内人権委員会に参加して、権利擁護の制度について学び、伝達研修で職員に報告することで、他の職員へ周知している。現在、制度を活用している利用者がいるので、日常のやり取りを通して制度の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを通じてご家族の意見を聞き、毎月ダイアリーで入居者の様子を知らせている。	職員は利用者の思いや意向を把握し、希望の実現に向けて支援している。アンケートを実施して家族の意見や要望を把握し、運営に反映させている。毎月、各担当者からの手紙と利用者の笑顔の写真を送付して家族の安心に繋げている。新型コロナ5類移行に伴い面会制限を緩和して、面会時にもコミュニケーションを取りながら家族の意向を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを実施し、現場の意見をリーダーを通じて取り入れている。	休憩終了後に30分程時間を取って、出勤者でミーティングを行っている。話しやすい雰囲気の中、活発に意見や提案が出され、出された意見を運営や介護サービスに反映させている。ミーティングでは、法人本部の決定事項や申し送り事項等を報告し、職員の意見をまとめて本部に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常時滞在し、代表者に毎日の朝礼で報告、相談を行っている。代表者は人事考課にて評価し、より良い職場環境に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢など採用対象にしていない。また各職員がその能力を活かし、職員が自己アピールできる場であるよう環境作りに努めている。	外部や内部の研修に職員が交代で参加して介護技術の向上を図り、資格取得を奨励し、職員一人ひとりの質の向上に取り組んでいる。長く勤める職員が多く、職員同士支え合い、働き続けることのできる環境である。管理者は、職員の特長や能力を把握して、適材適所に役割分担し、職員一人ひとりが能力を活かして働くことが出来るように配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の人権委員会、人権研修に参加。また外部の人権研修にも参加している。内部研修も年に2回行っている。	利用者の人権を守る介護のあり方を、法人の人権委員会、人権研修に参加した職員が伝達研修で報告し、職員への周知を図っている。言葉遣いや対応について常に職員間で話し合い、利用者がホームの中で安心して穏やかに暮らすことのできる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人開催の院内研修に毎月参加し、動画視聴にて全員参加している。また、GHの研修は毎月全員参加で行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いとのか(GH情報交換会)に加盟しており、情報を共有している。また、金武校区よかネットに参加し、近隣の福祉事業所と情報を共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が目を配り、声をかけ傾聴し、気になる方には個別の時間を設け、関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を聞き、その意向を反映するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談しながら必要なサービスを利用できるよう努めている。ケアプランを説明し、コピーを渡している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る(洗濯・掃除)事を職員と一緒にしながら、その日その日の生活を共有している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室にて面会して頂いている。 また1か月の様子をお手紙でお知らせし、写真も一緒に渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や親交のある友人の電話の取次ぎ、居室での面会や外出も行っている。	新型コロナ5類移行に伴い、面会制限を緩和し、家族や友人、知人の面会時には、楽しい時間を過ごしてもらっている。友人が面会に来て、一緒に外出して食事をして帰る等、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席に配慮したり、談話コーナーのソファでトランプやゲームを行い、自然と集まれるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には契約書に沿った説明を十分に言い、退去後も不安解消のため相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを優先し、できる限り希望や意向を取り入れるよう努め、ご家族の思いも確認している。	ホームでの日常会話から、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有して、希望の実現に向けて取り組んでいる。経験の長いベテラン職員が多いので気づきも早く、家族に相談しながら利用者の思いが叶えられる支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にしながら、ご本人やご家族からの情報を元に把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が無理なく、残存能力を発揮できるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで日々の気づきを取り上げ、計画作成担当者と受け持ち担当者が介護計画を作成している。面会時や電話等でご家族の意向を取り入れるよう努めている。	面会時や電話等で利用者や家族の要望を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、モニタリングを3ヶ月毎に行い、利用者の重度化や状態変化があれば、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の表情や変化、ケアの実施など個別のカルテに記録している。また、職員間で共有しカンファレンスノートを活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族と相談しながら必要なサービスを利用できるよう努めている。ご家族の要望を聞き、個々の趣味などにおけるご本人らしい時間を過ごしてもらえるよう支援している。また、ご家族の状況に応じ対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日課の散歩や室内のレクリエーションなど楽しんでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣病院、薬剤管理指導の連携を密にし、情報提供を行っている。 また看取り時は訪問診療を利用している。	母体医療機関看護師の週1回の訪問時に、利用者の状態変化をその都度報告する体制が整い、細かく連携することで、24時間利用者の健康管理を行っている。基本的には往診であるが、主治医によっては受診することもある。また、歯科衛生士より月に1回口腔ケアの指導を受けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員が週に1回訪問し、入居者様の健康管理、医療活用に活かしている。 また、歯科衛生士より月に1回口腔ケア指導を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い説明、情報提供を行っている。退院カンファレンスにも参加し、退院後の対応を含めた相談をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れ、職員ができる事をご家族には十分な説明を行ったうえで、医師を交え同意書の作成、方針を話し合いながら支援ができる体制づくりに取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期のホームの方針について利用者や家族に説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認し、職員間で方針を共有して、希望があり条件が整えば看取りの支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修等で緊急時の対応の指導を受けている。GHで起こりうる事故防止と対策の話し合いを行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会で意見交換を行い、マニュアルに沿って年2回土砂災害・火災の避難訓練を行い消防署の指導を受けている。 非常食や防災備品を備蓄している。	非常災害を想定して、年2回、グループホーム単独の避難訓練を実施している。消火器や通報装置の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認し、利用者全員を安全に避難誘導出来る体制を整えている。また、非常災害時に備えて非常食や飲料水を備蓄している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し、各職員が人生の先輩であるという認識を持ち入居者様の人格を尊重した対応、言葉遣いに配慮している。	利用者一人ひとりの人格を尊重した介護のあり方を、ミーティングや申し送り時に話し合っている。特に、言葉遣いや対応に注意し、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢で入居者様と向かい合いできる範囲で自己決定を促し、主体的にコミュニケーションを取り納得いくまで話し合っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人に合ったペースで過ごせるように配慮している。また入居者様を優先する事を意識し、ケアの中に業務を上手く融合している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり、職員が身だしなみを整えている。 定期的に訪問理容を受けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の残存能力に応じて準備や片付け等協力している。献立で嫌いなもの、アレルギーがある時は別メニューで対応している。また、状態に合わせて刻み食やトロミをつけムセ等ないよう支援している。	栄養バランスやカロリー計算された配食サービスを利用し、利用者の残存能力を活かして、お茶くみや食器拭き等を手伝ってもらっている。おやつには、おはぎを作る等して利用者に変化を喜ばれている。利用者の状態に合わせて、とろみや刻み、ミキサー食を提供している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量や水分のチェックを行っている。摂取量の少ない人には十分取って頂けるよう細目に声掛けを行ったり、コップの工夫や個人で好みの飲料を購入し、水分の補給を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後の洗面時毎食後の歯磨き、入れ歯の洗浄等声掛けにて促している。また職員が磨き残しがないか確認し介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々のリズムに合わせ声掛けを行い誘導を行っている。排泄による不快感を軽減するべくご本人に合わせたオムツの調節、トイレや個人の希望に添い、居室にポータブルトイレを設置して排泄して頂けるよう努めている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。立位がいつまでも保てるように毎日歩行訓練を行い、夜間帯も出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、職員が重要性を理解し普段から水分摂取や運動を意識し、個々に応じた薬の調節を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望を取り入れ入浴出来るように取り組んでいる。拒否が見られる方には、声掛け、タイミング、足浴等工夫している。	利用者の体調や希望に配慮しながら、大体2日に1回の入浴支援に取り組んでいる。利用者と職員が一对一でコミュニケーションを図る中で健康チェックを行い、会話を楽しんでいる。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり職員が代わって声掛けし、無理な場合は清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や入浴、レク等活動的に過ごして頂き、馴染みの寝具を利用したり、飲み物を用意する等安心して自然な眠りに繋がれるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、お薬手帳をカルテに保管し、薬剤管理指導報告書も職員がいつでも確認できるようにしている。職員一人一人が薬の目的、重要性を理解し支援を行っている。また、服薬の際は複数の職員で声出し確認を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の活動の中に散歩やレクリエーションを取り入れ、趣味や生活歴を活かし家事手伝い、歌番組等その方に合った楽しみをみつけ支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	毎日近隣に散歩へ出かけたり、季節により外出、ドライブなど行っている。また、希望に添うように個別に外出したり、ご家族に協力してもらっている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら外出の支援に取り組み、利用者の生きがいに繋げている。天気の良い日には毎日のように近隣の散歩に出かけ、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対し不安感が強い方には、居室に現金を所持している。買い物は希望があればお連れしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり、電話を取り次ぐようにしている。季節の挨拶や行事のお知らせには、ご本人に名前やコメントを書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者が一緒に作った作品を飾ったり、テレビの前にソファを設置し、一緒にくつろぎテレビを見たり、お茶やおやつを食べながら話せるスペースを設けている。	ホームの室内は、音や照明、温度や湿度、換気に注意して、清潔で明るく家庭的な雰囲気のある共用空間である。利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、中庭からの採光で明るく、利用者と職員が制作した季節の作品が飾られている。仲の良い利用者同士が談笑したり、テレビを観たりしてゆったり寛げる生活空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファや一人がけのリクライニングシートの設置、円卓テーブルを数か所に配置し、思い思いの場所で過ごして頂ける空間づくりをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇等を持ち込み写真や思い出の品を作っている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が長年使い慣れた馴染みの家具や仏壇、家族の写真等を持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに過ごせるように配慮している。また、感染症対策として各居室に換気扇を設置し、掃除を小まめに行い、清潔な環境の中で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールトイレに手すり、浴槽には手すり、滑り止めを設置している。キッチンにはIHヒーターを採用し、流し台は入居者のサイズにしている。		